

平成27年度 宇都宮市立城山中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 「健康で、豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成」を目指して、感性を磨き、社会的知性と実践力を身に付ける。

目指す児童像 ○進んで勉強する子ども（かしこく）

○思いやりのある子ども ○喜んで働く子ども（なかよく）

○健康で明るい子ども（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

今年度のテーマ『 みんなが 楽しく 』 「地域が学校～地域に学び、地域とともに伸びる城山中央小学校」

<児童にとって> ○学ぶ楽しさ ○仲間がいる楽しさ ○学校の楽しさ のある学校

<保護者・地域にとって> ○通わせる楽しさ ○協力する楽しさ のある学校

<教師にとって> ○教え・導く楽しさ のある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 城山中央小学校の歴史と伝統を踏まえ、長年にわたって築いた教育の精神や校風を継承し、その発展に努める。
- (2) ○学校経営の中核に児童の確かな学力の定着を位置づけ、基礎基本の確実な定着と課題解決に必要な資質能力を育てる。
- (3) ○規範意識や倫理観などの社会性を身に付け、豊かな心、たくましい体をもった子どもの育成に努める。
- (4) 家庭・地域社会との連携強化に努めるとともに、家庭・地域の教育力を生かした教育活動を充実し、地域に根ざして開かれた地域の学校づくりに努める。
- (5) 教育公務員としての使命を自覚し、和と協働の精神を大切にして、専門職にふさわしい資質の向上を目指すとともに授業者としての授業力の向上を図る。
- (6) 城山学校園教育ビジョンにのっとり、小中一貫教育を推進するとともに、学校園内各小学校との連携による地域一体の教育を推進する。

【城山地域学校園教育ビジョン】 ともに学びあう城山っ子を育む地域学校園

【ビジョンの理念】人と関わり合うことを大切にし、ともに向上しようという意識を高めながら、望ましい人間関係のもと、支え合いと活気のある集団の中で、様々な活動に主体的、意欲的に取り組む児童生徒を育てる教育を積極的に推進する。

【スローガン】なんでも全力、みんなでチャレンジ

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

学び合う楽しさ、豊かな心の育成を目指して、和と協働の学校運営を推進する

～みんなが楽しい、城山中央小学校～

【学 習 指 導】

適切に課題を設定し、自力で解決したり、友達と意見交換して考えを深めたりする能力の育成

【児 童 生 徒 指 導】

思いやりの心を持ち、物事を正しく判断し、主体的な行動ができる児童の育成

～児童と児童、児童と教師のコミュニケーションをより深めることを通して～

【健康（保健安全・食育）・体力】

自分の体に関心を持ち、進んで健康の保持増進と体力の向上に励む児童の育成

～教科体育や体育的行事の充実と、児童が体を動かしたくなる活動の推進～

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価												
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 適正な学校運営に努める。 ・創意と調和のある「子どもを生かす」教育の実践 ・学校評価を生かした保護者、地域と一体化した学校づくりの推進 ② 児童・保護者・教師・地域の想いを把握し、学校運営に生かす。 ・学校運営推進委員会の設置	B	A 1 【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>94.8%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.3%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>→</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>→</td></tr></table> 児童は、「学ぶ楽しさ」・「仲間がいる楽しさ」・「学校の楽しさ」を実感しており、適正な学校運営が実践されたと言える。また、児童・保護者・地域の思いを学校運営に生かすことができた。 【次年度の方針】 「みんなが楽しく」の学校経営の理念を継承し、学級経営の研究を中心にして、楽しい学校づくりに取り組んでいく。	児童	94.8%	↑	保護者	94.3%	↓	地域住民	100.0%	→	教職員	100.0%	→
	児童	94.8%		↑												
	保護者	94.3%		↓												
地域住民	100.0%	→														
教職員	100.0%	→														
A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 全体アンケートの「教職員は、協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 教職員の資質と能力の向上に努める。 ・教育に対する理念、使命感、豊かな人間性、教育実践力、動向を察知した対応力等の向上 ・「報告・連絡・相談」の徹底 ・学年交換授業や教科担任制の推進 ・教師一人一人の授業力の向上	B	A 2 【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>99.2%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.8%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>→</td></tr></table> 教職員は使命感をもって児童と向き合い、授業力向上のための研究に意欲的に取り組むことができた。また、組織の一員としての役割を十分理解した上で、それぞれの持ち味を発揮しながら職務を遂行することができた。 【次年度の方針】 児童の実態を的確に把握して指導にあたり、学校課題を解決するための専門的な研修を積極的に行う。	児童	99.2%	↑	保護者	94.8%	↑	地域住民	100.0%	↓	教職員	100.0%	→	
児童	99.2%	↑														
保護者	94.8%	↑														
地域住民	100.0%	↓														
教職員	100.0%	→														
A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 基本的な生活習慣と規範意識の育成に努める。 ・生命や人権尊重を題材とした授業（道徳・学級活動等）の実施 ・「城央小のよい子」を活用した、統一的・継続的な指導 ② 家庭・地域、関係諸機関との連携	B	A 3 【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>83.6%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.0%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>92.9%</td><td>↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>→</td></tr></table> 日々の教育活動の中で、基本的な生活習慣の定着と規範意識の育成に努めたことによって、改善は見られたものの、数値指標を達成することはできなかった。 【次年度の方針】 学校生活の基本となる「城央小のよい子」を活用し、学校全体としての方向性を統一していく。また、学級経営を中心にして児童・教職員の人権感覚を高めていく。	児童	83.6%	↑	保護者	90.0%	↑	地域住民	92.9%	↓	教職員	100.0%	→	
児童	83.6%	↑														
保護者	90.0%	↑														
地域住民	92.9%	↓														
教職員	100.0%	→														

A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 学習指導の工夫・改善を図る。 ・計画的な朝の学習の推進と見通しがつかめる授業の推進 ・指導技術の確立と授業時数の確保 ・習熟度別学習や少人数指導・TT指導等の効果の実施 ・学習内容定着度調査などの活用 ・かがやきルームの有効活用及び指導体制の充実 ・授業力向上のための校内研修の充実 ②家庭・地域への広報活動の工夫	A 4 【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児 童</td><td>95.6%</td><td>↑</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>86.0%</td><td>↑</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>92.9%</td><td>↓</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>→</td></tr> </table> 一人一研究授業の実践によって、学習指導の工夫や改善が図られた。また、OJTを活用することで、全体的に授業力を向上させることができた。但し、朝の学習の推進は十分とは言えなかった。 【次年度の方針】 習熟度学習や少人数指導、T・T指導等、個に応じたきめ細かな指導によって、学力の向上を図る。	児 童	95.6%	↑	保護者	86.0%	↑	地域住民	92.9%	↓	教職員	100.0%	→
児 童	95.6%	↑												
保護者	86.0%	↑												
地域住民	92.9%	↓												
教職員	100.0%	→												
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組みを推進する。 ・「いじめ等対策委員会」の活用 ・「いじめゼロ強調月間」の充実 ・いじめ根絶集会の実施 ・定期的なアンケートの実施と教育相談の充実 ・あいさつ運動の実施等見守り体制の整備 ・潤いのある学校環境の整備（ふわふわ言葉の掲示等） ・「さん」付けの呼び方の徹底	A 5 【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児 童</td><td>98.8%</td><td>↑</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>67.8%</td><td>↓</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>78.6%</td><td>↓</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>→</td></tr> </table> 教職員は、いじめに対する危機意識を常にもって児童の指導にあたり、児童もそのことはよく理解していると言えるが、保護者や地域住民の理解を得ることが十分とは言えなかった。 【次年度の方針】 いじめ撲滅に向けた具体的な活動を継続するとともに、保護者や地域住民にも実施内容を事前に知らせることで、学校・保護者・地域住民が連携協力できるようにする。	児 童	98.8%	↑	保護者	67.8%	↓	地域住民	78.6%	↓	教職員	100.0%	→
児 童	98.8%	↑												
保護者	67.8%	↓												
地域住民	78.6%	↓												
教職員	100.0%	→												
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「自分の学校での生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① マネジメントサイクルを活用した特色ある教育課程の編成に努める。 ・「児童が生き生きと活動できたか」という視点からの学校行事等の反省・改善	A 6 【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td>児 童</td><td>93.6%</td><td>↓</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>95.9%</td><td>↓</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>92.9%</td><td>↓</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>→</td></tr> </table> 本校の特色に基づいた教育課程の展開は図られ、達成状況は良好と言える。しかし、児童・保護者・地域住民とも昨年度と比較すると低下傾向が見られた。 【次年度の方針】 学校行事等のアンケートや反省から課題を明確にし、ねらいに則した活動内容になっているかを検討した上で活動内容を見直し、改善を図る。	児 童	93.6%	↓	保護者	95.9%	↓	地域住民	92.9%	↓	教職員	100.0%	→
児 童	93.6%	↓												
保護者	95.9%	↓												
地域住民	92.9%	↓												
教職員	100.0%	→												

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 90% ⇒地域住民の肯定的回答 90%	① 保護者や地域に信頼される学校づくりに努める。 ・開かれた学級、学校づくりの推進 ・うつのみやオープンスクール、授業参観、学校自由参観等の効果的な実施 ・学校便り、ホームページ、学年便りなどの充実による積極的な情報発信 ・保護者、<u>地域の方との積極的なコミュニケーション</u>	B A 7 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>93.9% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>93.3% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0% →</td></tr></table> 開かれた学校づくりを目指し、各種の便り等を通じて学校の様子が周知できるよう努めた。また、HPによって学校から各種の情報を発信したり、授業参観等を積極的に実施したりすることで、保護者や地域住民からの信頼が得られるよう取り組んできた。 【次年度の方針】 各種のたよりや HP 等を通して、より積極的に情報を発信していく。また、学校支援の活動に取り組んでいる方々から率直な意見を聞くようにする。	児 童		保護者	93.9% ↓	地域住民	93.3% ↓	教職員	100.0% →
児 童										
保護者	93.9% ↓									
地域住民	93.3% ↓									
教職員	100.0% →									
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 90% ⇒地域住民の肯定的回答 85%	① 地域人材の協力や企業の専門性を生かした学習を推進する。 ・「町の先生」の年間指導計画への位置づけ ・各育成会や地域行事への積極的な参加 ・<u>小中一貫教育に関わる活動の計画的な実施</u> ・家庭・地域・企業等と連携した活動の広報活動の工夫・充実	B A 8 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>92.4% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.1% ↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0% →</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0% →</td></tr></table> 地域人材を活用した学習活動を計画的に進めることができた。また、学校を支援する各種のボランティアによる活動が展開され、家庭や地域と連携・協力することができた。 【次年度の方針】 次年度も「城央小町の先生」に登録された地域人材を生かしながら、学習効果を高めていく。授業参観時等に実施することによって、保護者の協力が得やすいように工夫する。	児 童	92.4% ↓	保護者	94.1% ↓	地域住民	100.0% →	教職員	100.0% →
児 童	92.4% ↓									
保護者	94.1% ↓									
地域住民	100.0% →									
教職員	100.0% →									
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 90%	① まごころ広場や花壇、教材園を中心とした環境整備に努める。 ・日常の清掃活動やまごころ清掃（校内や公園・通学路等）の工夫改善と充実 ・児童と協働した環境整備の工夫 ・教室環境の見直しと改善 ② P T A やボランティアの協力を得て、環境整備に努める。 ・トイレやオープンスペースの美化	B A 9 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.6% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>95.8% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0% →</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.5% ↓</td></tr></table> 学校業務嘱託員の全面的な協力により、校内環境の改善が図られた。また、行事や時季に合わせての掲示物等を工夫することによって、潤いのある学習環境を整えることができた。 【次年度の方針】 古くなった掲示物を更新し、学習に必要な掲示物を精選することで学習環境を整えていく。	児 童	91.6% ↑	保護者	95.8% ↑	地域住民	100.0% →	教職員	95.5% ↓
児 童	91.6% ↑									
保護者	95.8% ↑									
地域住民	100.0% →									
教職員	95.5% ↓									

教育活動の状況	生活	B 1 児童は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、学年×10分+10分の家庭学習を進めている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 全体アンケートの「家庭では、毎日子どもの家庭学習の状況を把握している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%	① 家庭と連携して、学習習慣の確立を図る。 ・「家庭学習のしかた」「自主学習のガイド」に基づいた、発達段階に応じた宿題や自主学習の工夫 ・「学習習慣定着強化週間」を定期的に設定して、家庭と連携した指導に努める。 ・低学年「お話宿題」の推進による学校教育への関心の啓蒙	B	B 1 【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>79.2%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>51.2%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>85.7%</td><td>↓</td></tr></table> 今年度は、より具体的な数値を設定することで家庭学習の定着を目指したが、保護者から見た児童の実態は厳しいものだった。 【次年度の方針】 「家庭学習のしかた」「自主学習のガイド」「学習習慣定着強化週間」の意義を各家庭に正しく理解してもらい、家庭と連携を図りながら家庭学習が定着するよう取り組んでいく。	児童	79.2%	↓	保護者	51.2%	↓	地域住民			教職員	85.7%	↓
		児童	79.2%	↓													
		保護者	51.2%	↓													
		地域住民															
教職員	85.7%	↓															
A 10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90% ⇒保護者の肯定的回答 80% ⇒地域住民の肯定的回答 80%	① 児童の創意を生かした「あいさつ運動」を推進する。 ・家庭及び地域協議会と連携した地域ぐるみの「あいさつ運動」の展開 ・小中合同の「あいさつ運動」の推進 ・「あいさつ運動」の内容・方法の工夫・改善（いつでも、どこでも、だれにでも）	B	A 10 【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>94.0%</td><td>↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>78.2%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.5%</td><td>↑</td></tr></table> 時と場に応じた日常的なあいさつの習慣は、徐々に定着しつつあるが、あいさつ運動がマンネリ化しているのが現状である。また、あいさつの日常化が不十分であることが保護者の評価から推察できる。 【次年度の方針】 あいさつ運動を継続させるとともに、各家庭・隣近所でもあいさつができるよう、懇談会等の機会に継続して呼びかけていく。	児童	94.0%	↑	保護者	78.2%	↓	地域住民	100.0%	↑	教職員	95.5%	↑		
児童	94.0%	↑															
保護者	78.2%	↓															
地域住民	100.0%	↑															
教職員	95.5%	↑															
A 11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80% ⇒地域住民の肯定的回答 80%	① 基本的マナーと状況に応じた言葉づかいの励行に努める。 ・時と場をとらえた指導の継続（訂正・賞賛） ・「職員室の入り方」等掲示物の作成と活用 ・「礼儀」についての道德の授業の展開	A	A 11 【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>82.3%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>72.6%</td><td>↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.0%</td><td>↓</td></tr></table> 日常生活の中で、全職員が時と場をとらえて継続して指導にあたってきた。乱暴な言葉や場にふさわしくない話し方については、その都度言い直しさせるなど、良好な言語環境の改善に努めた。 【次年度の方針】 基本的なマナーについて教職員で共通理解を図り、学校全体が同歩調で指導できるようにする。また、学級懇談会等の話題に取り上げ、保護者の意識を高めることで家庭の協力が得られるようにする。	児童	82.3%	↓	保護者	72.6%	↑	地域住民	100.0%	↑	教職員	90.0%	↓		
児童	82.3%	↓															
保護者	72.6%	↑															
地域住民	100.0%	↑															
教職員	90.0%	↓															
		B 2 児童は、思いやりの気持ちをもって生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は友達にやさしく、思いやりがある。」 ⇒児童の肯定的回答 90% ⇒教職員の肯定的回答 90%	① 一人一人を大切にする人権教育を推進する。 ・人権感覚・人権尊重の態度の育成を目指した指導の充実 ・教師一人一人の意識の高揚 ・人権週間・いじめゼロ運動の効果的な実施 ② 三あい運動を継続的に実施する。 ・居がいのある学級づくり ・保護者への啓発活動の実施	B	B 2 【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>91.6%</td><td>↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.3%</td><td>↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>→</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>→</td></tr></table> 人権感覚チェックリストを活用した教職員の人権意識の高揚や学級経営を中心とした望ましい人間関係の構築に努めた。特に、児童の生活の基盤である各学級においては相手を思いやる気持ちを育てるために、その場で適切な支援や指導を行った。 【次年度の方針】 次年度も人権感覚を高める教育を継続し、学級経営を軸として道德教育や児童指導の充実を図り、豊かな心づくりを進めていく。	児童	91.6%	↓	保護者	90.3%	↓	地域住民	100.0%	→	教職員	100.0%	→
児童	91.6%	↓															
保護者	90.3%	↓															
地域住民	100.0%	→															
教職員	100.0%	→															

A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。

【数値指標】

全体アンケートの「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」
⇒教職員の肯定的回答 90%
⇒児童の肯定的回答 90%

① 児童が進んで運動に取り組むことのできる体育的環境の整備と体を動かす遊びの日常化を図る。

- ・竹馬や一輪車などの遊具の整備
- ・まごころ広場の活用
- ・「みんなで遊ぶ日」の工夫と外遊びの奨励

A12 【達成状況】

児 童	93.6% ↓
保護者	88.8% ↓
地域住民	92.9% ↓
教職員	100.0% →

休み時間に外遊びをする姿が見られた。まごころ広場も遊びの場として活用されていた。なかよし班、クラス等で「みんなで遊ぶ日」を活用し、体を動かすことができた。

【次年度の方針】

「がんばりカード」に6年間の記録を残し、保護者の言葉やサイン等をもらう。また、無理なく遊びながら体力づくりができるよう、がんばりカードを活用しながら外遊びを奨励する。

A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。

【数値指標】

全体アンケートの「自分は、好き嫌いなく食べている」
⇒児童の肯定的回答 80%
⇒保護者の肯定的回答 80%

① 食の指導や給食指導の充実

- ・朝食をとっていない児童への指導
- ・養護教諭、学校栄養士と連携した各教科や特別活動等における食育の実施
- ・家庭と連携した食の指導
- ② 「すこやか教室」の実施
- ・町の先生と連携した食育の指導

A13 【達成状況】

児 童	83.2% →
保護者	73.9% ↓
地域住民	100.0% →
教職員	90.5% ↓

食育コーナーの設置等によって、児童の食への関心は高まっている。

【次年度の方針】

給食だより等を生かして、マナーや残食が多い食材のレシピ等の情報を積極的に発信する。また、保護者からのアイディアも募集することで、食への関心を高める。

B3 児童は、自分の健康や体力に関心をもって生活している。

【数値指標】

全体アンケートの「児童は、健康に気を付け、めあてをもって運動している」
⇒児童の肯定的回答 80%
⇒保護者の肯定的回答 80%

① 家庭と連携して、健康の保持・増進に努める。

- ・健康診断結果の適切な処置
- ・手洗い・うがいなどの衛生的な生活習慣の確立
- ② 体力向上のための工夫・改善に努める。
- ・各種検定や全校生で取り組む強化月間の実施
- ・体育の授業、体育的行事を核とした体力づくりの実践
- ・元気っ子体力テストの活用

B3 【達成状況】

児 童	92.8% ↑
保護者	68.9% ↓
地域住民	100.0% →
教職員	100.0% →

衛生的な生活習慣の確立や体力向上のための様々な取り組みが、児童の健康・体力への関心を高めた。

【次年度の方針】

「健康や体力への関心を高めるための家庭での取り組み」についてのアンケートを実施し、保護者の声を学校だより等に掲載することで啓発を図る。

A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケートの「児童は授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」

⇒教職員の肯定的回答 90%

⇒保護者の肯定的回答 90%

A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケートの「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」

⇒教職員の肯定的回答 90%

⇒保護者の肯定的回答 90%

B4 進んで読書に取り組む、読書を楽しんでいる。

【数値指標】

全体アンケートの「児童は進んで読書に取り組み、読書を楽しんでいる」

⇒児童の肯定的回答 80%

⇒保護者の肯定的回答 80%

① 基礎・基本の確実な定着を図る。

- ・少人数指導、習熟度別学習等の工夫
- ・話の聞き方や発表の仕方など徹底
- ・「城央小の学習の仕方」に基づいた基本的な学習態度の徹底

② 児童の学習意欲を高め、共に学び合う授業の展開を図る。

- ・学習意欲を喚起する工夫
- ・共に学び合う学習展開の工夫

① 学び合いを重視し、「学ぶ楽しさ」と「考えるおもしろさ」を味わわせながら、思考力の育成を図る。

- ・話の聞き方や発表の仕方など学習のきまりの掲示物の作成と活用
- ・話す力・聞く力・学び合う力の向上を目指す授業の工夫
- ・共に学び合う学習活動の工夫

② 「わかる授業」の推進

- ・明確な課題の提示と板書等の工夫
- ・個に応じた指導
- ・教師の自主的、自発的研修の推進

① 読書活動の充実を図る。

- ・全校一斉、教師と児童の朝の読書の徹底
- ・必読書感想カードの実施
- ・ボランティアによる読み聞かせの実施
- ・多読者賞の表彰
- ・家庭と連携した家読の推進
- ・地区市民センターの利用方法の周知や朝読書の様子の紹介
- ・絵本の国の整備

B

B

B

A14【達成状況】

児童	93.2% ↑
保護者	89.4% ↓
地域住民	100.0% →
教職員	95.2% ↓

「この時間に何を学ぶのか」を明確にすることで児童の学習意欲を喚起し、基礎基本の確実な定着が図られるよう取り組んだ。ペア学習やグループ学習等を工夫し、主体的な学習の展開に努めた。

【次年度の方針】

次年度も効果的な学び合いの場や主体的に学習に取り組めるような学習形態等を工夫しながら授業を展開していく。

A15【達成状況】

児童	90.8% ↑
保護者	89.4% ↑
地域住民	100.0% →
教職員	100.0% →

「分かる授業」を推進したことによって、児童は落ち着いて学習に取り組むことができるようになってきていると言える。保護者の数値目標は僅かに下回ったが、昨年度よりも伸びが見られ、取り組みの成果が表れている。

【次年度の方針】

次年度も「分かる授業」の推進を継続するとともに、「学ぶ楽しさ」や「考えるおもしろさ」が実感できる授業を展開するための具体的な方法について研究を進める。

B4【達成状況】

児童	86.4% ↑
保護者	66.1% ↓
地域住民	
教職員	100.0% →

週2回の朝の読書の徹底や読み聞かせ等の取り組みによって、進んで読書に親しむ児童が多くなっている。しかし、保護者の受け止め方は昨年度に引き続き、厳しい状況である。

【次年度の方針】

学校での取り組みを積極的に発信するとともに、家読用の記録用紙を工夫することで家庭での読書量アップを目指したい。また、図書室及び絵本の国を整備し、楽しく読書できる環境づくりを進める。

本校の特色・課題等	B5 学校は、保護者・地域住民との連携を図り、安全で安心な学校づくりに努めている。	① 危機管理意識の高揚を図る。 ・ 定期的な登校・下校指導の実施 ・ 避難訓練，防犯教室の実施 ・ スクールサポーター，防犯ボランティア「まごころサポーター」等との連携	B	B 5 【達成状況】								
	【数値指標】			<table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>95.4% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0% →</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0% →</td></tr></table>	児 童		保護者	95.4% ↑	地域住民	100.0% →	教職員	100.0% →
	児 童											
	保護者	95.4% ↑										
地域住民	100.0% →											
教職員	100.0% →											
全体アンケートの「学校は、保護者や地域住民との連携を図り、安全で安心な学校づくりに努めている」		安全で安心な学校づくりの取り組みは、一定の評価を得ることができた。また、関係機関の協力を得ながら各種の行事を実施したことによって、指導の効果が高まった。										
⇒教職員の肯定的回答 90%		【次年度の方針】										
⇒保護者の肯定的回答 90%		安全で安心な学校づくりには保護者や地域住民の協力が不可欠であることから、次年度も随時情報を発信することで連携や協力を深めていくようにする。										
⇒地域住民の肯定的回答 90%												

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・児童の学校生活に関するA3の肯定的回答の割合が昨年度を上回り、決まりやマナーの遵守に関する意識が改善されつつあることが伺える。来年度も「居がいのある学校」「居心地の良い学校」の実現に向けて、「城央小のよい子」や週目標の確認を徹底し、児童が落ち着いて学校生活を送ることができるよう、全校体制で指導していく。また、学校での様子を各種のたよりやHPで保護者や地域に発信し、連携協力していく。

○家庭学習については、より具体的な数値を示すことによって定着が図れるように取り組んだが、全体的に肯定的回答の割合が低下してしまった。目安となる学習時間を明確に示したことが厳しい評価に結び付いたといえる。家庭での学習を定着させるには、保護者の理解と協力が不可欠であることから、学級懇談会や各種のたより等で周知するとともに、家庭学習の進め方について指導を強化していくようにする。

○時と場に応じたあいさつは、学校はもとより地域学校園、地域協議会でも積極的に取り組んできたため、徐々に定着してきている。今後も元氣よくあいさつすることに加えて、単に大きな声であいさつするだけでなく、相手を見て気持ちよくあいさつできる習慣づくりに力を入れていきたい。

・学習への積極的な取り組み方や落ち着いた学習態度等に関する項目で児童の肯定的回答の割合が昨年度を上回った。このことから、基礎基本の定着を図ったり、考える力や表現する力を伸ばしたりする上で大切な学習環境が整ってきていることが伺える。来年度は、教師の授業力をさらに高め、「分かる授業」の展開を図ることによって、児童の積極的な学習参加や発表意欲の向上に結び付けていく。

・健康な体づくりに関する保護者の肯定的回答の割合が昨年度を下回り、児童が自ら進んで運動に取り組むことが減少していると感じていることが伺える。このことから、家に帰ってからはあまり運動しないという実態が見えてくる。以上のことから、運動の習慣化や生活化を進めるために、学校体育において運動の楽しさを味わわせることや基礎的な運動技能を身に付けさせることが重要と言える。

・読書に関する保護者の肯定的回答の割合が昨年度を下回っており、家庭における読書が定着していないと言える。児童が家で読書するための環境づくりは、保護者の協力が不可欠である。機会をとらえて読書に関する情報（教育に関する本やお薦めしたい本）を発信し、保護者も一緒に読書するという意識を高めていくことで、家読の習慣化を図りたい。

6 学校関係者評価

・全体的に肯定的回答の割合が昨年度を下回った。これは、昨年度よりも回答実数が減少したため、割合で表すと増減の幅が大きくなったことが影響した結果といえる。

・児童の様子を時々しか見られないため、適正に評価することが難しい。学校の取り組みや児童の様子等を学校だより、HPで発信すればよいのではないかと。また、授業参観以外にも普段の生活の様子が見ることができる機会があるとよい。

○以前より明るくあいさつする児童が増えている。これは家庭でも取り組んでいる結果であり、地域の方も協力的で皆で見守っている感じがする。

・いじめの問題については、言葉によるものや表面的にとらえにくいものがあると思う。学校では、アンケートを実施したり、いじめ対策委員会を開いたりしているが、保護者に理解されていないのが現状である。学校での取り組みを公表して成果を示せるとよいのではないかと。

・アンケートの結果で肯定的回答が高かったものについては、その数値を下げないように取り組んでもらえるとよい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

☆ 地域に信頼され、地域の核となる学校づくりを推進するために、学校を取り巻く、児童・保護者・地域・教職員の想いを吸い上げ、それらを検討し、次年度も下記のような4つのプロジェクトを組織し、全職員が学校経営に参画できる工夫を行い、次年度の学校ビジョンに反映させる。

